

日米軍事同盟と憲法9条の価値

一 日米安全保障条約50年・軍事同盟はどこまで来たか 一

「核のない世界」でノーベル平和賞のオバマ大統領。そして、アメリカの未臨界核実験。非核三原則の国・日本で核の傘の抑止力と普天間県内移設を固執する菅直人首相。新安保条約を大きく越え、日本国憲法を骨抜きにした「日米同盟：未来のための変革と再編」（2005年10月）とは……。

終戦から5年後の1950年サンフランシスコ単独講和会議で「日米安全保障条約」が締結され、1960年6月「日米間の相互協力及び安全保障条約」、いわゆる今日の安保条約と日米地位協定が締結されました。それから50年、条文はそのままにして日米安保体制から「日米同盟」へと、軍事同盟の枠組みが強化され、内容が大きく変化してきました。

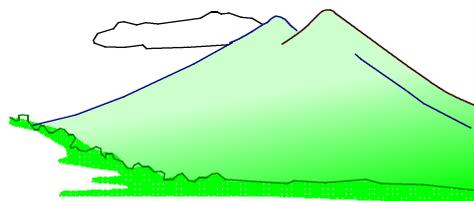
何がどうなり、どうなっていくのか？ 今回の講演と対話のつどいは世界の軍事同盟の消長を踏まえ、これらについて話し合いたいとおもいます。

日時：2011年1月16日(日)
開会：午後1時30分～午後4時30分
場所：大穂公民館 視聴覚室
つくば市筑穂1-10-4 TEL:029-864-3111
どなたでも自由に参加できます。入場無料。

講師：東森英男氏

(安保破棄中央実行委員会 事務局次長)
1949年広島県生まれ、日本高等学校教職員組合・全日本教職員組合役員を経て、2009年4月より現職。

会場案内図



筑波山

日本の宝、憲法9条。
この条文を、全世界の国々の
憲法の中に取り入れるよう
運動をしましょう。



主催：筑波研究学園都市研究所・大学関係9条の会

連絡先：茅野徳治 TEL/FAX:029-857-6593

ホームページ：http://peace.arrow.jp/tsc/i_home.php